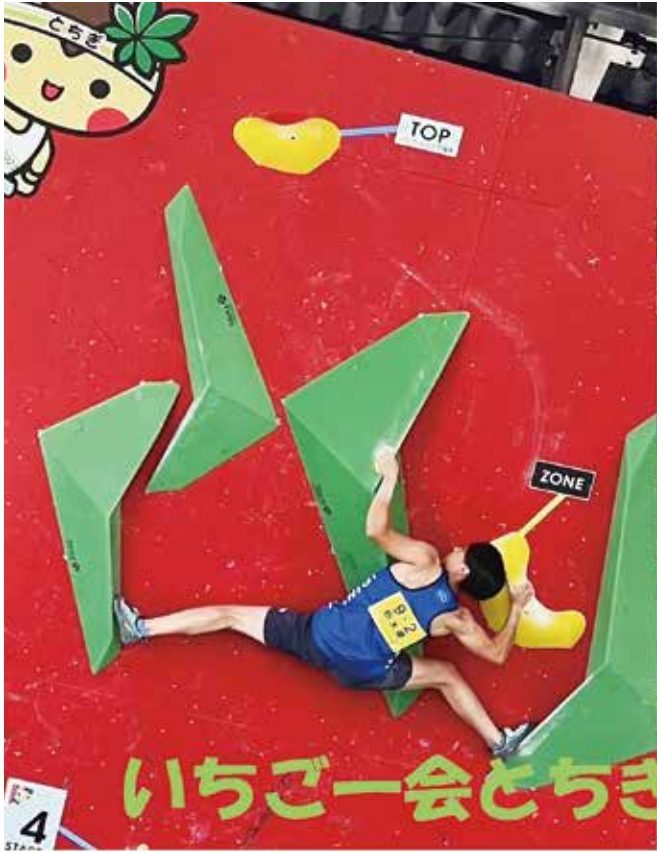




会報 第46号

● 発行者 ●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
● 編集 ●
同上編集委員会
● 印刷所 ●
(株) 井上総合印刷

真岡北陵高に期待する



同窓会会長
廣田 茂十郎

令和五年の新年を迎え
会員の皆さまには、ます
ますご健勝のこととお慶
び申し上げます。

今年の干支は癸卯（み
ずのと・う）です。停滞
し続けていた世の中に希
望が芽吹き、花開く年で
あるといわれています。

収束の見えないコロナ
禍ではありますが、今年
は新常态の進化により、
学校にとっても、会員の
皆さんにとっても、きば
う（癸卯）の年となる事
を祈念いたします。

昨年は、いちご一会と
ちぎ国体、全国障害者ス
ポーツ大会が三年ぶりに
本県で開催されました。
北陵高生や同窓生も、ラ
イフル射撃・スポーツク
ライミング競技に本県代
表として出場し、大いに
活躍しました。

又、他にも生徒の皆さ
んの様々な活躍、頑張る
姿に同窓会として、誇り
と喜びを感じることが出
てきました。

母校は今年創立百十六
年を迎えますが、この様

な生徒の皆さんの活躍
に接し、校長先生を始
め、諸先生方の生徒に対
する、ひたむきな指導の
元、教育の成果が充分に
上がっていることを感
じ、心強く思っている所
です。

今、日本は人口減少、
少子高齢化社会を迎え、
地方でもその対策に取り
組んでいる所です。
地方は若い力を求めて
います。

「ふるさと教育」の重
要性を再認識しなければ
ならないと感じていま
す。

校訓「今日あるを感謝
し、最善を尽くす」
二宮尊徳先生の報徳の
精神そのものが「ふるさ
と教育」と考えます。

将来の郷土作りの主人
公は北陵高の生徒達かも
しれません。
結びに、母校と本会の
ますますの発展、生徒皆
さんのご活躍をご祈念申
し上げ、挨拶とさせてい
たきます。

学ぶことを止めない北陵生



校長
藤野 康之

令和五年の新年を迎
え、同窓会の皆様におか
れましては、益々ご健勝
のこととお慶び申し上げ
ます。また、平素より本
校教育活動に對しまして
格別のご理解とご支援を
賜り、厚く御礼を申し上
げます。

さて、令和四年度もコ
ロナ禍に教育活動が制限
される一年となりました。
しかし「学びを止め
ない」のかけ声のもと、
令和二年度よりも令和三
年度、令和三年度よりも
令和四年度と学校行事等
の活動を実施してきまし
た。令和四年度のこま
まの主な活動を報告いた
します。

学校行事は四月に真岡
市民いちごホールにおい
て、創立記念式典を実施
し、同窓会副会長の猪野
正子様のごあいさつに引
き続き芸術鑑賞会を举行
しました。五月には一学
年田植え、六月は全校生
による体育祭を終り行い
ました。九月は二年生に
よるインターンシップを
三年ぶりに実施、十月の

修学旅行ですが、令和二
年度は中止、令和三年度
は県内一泊、本年度は二
泊三日で関西方面に行っ
てきました。十一月の北
陵祭は五日(土)に保護者限
定の公開として実施しま
した。中学時代には中止
だった生徒が多くいると
思います。そのことも
あつてか準備から当日ま
で、楽しそうに主体的に
協力して行っていました。

特別活動においては、
一学期に関東大会に、弓
道部・ライフル射撃部・
陸上部と多くの部活動が
出場することができまし
た。いちご一会国体では、
ライフル射撃部から六名
が出場し、「少年女子十
mエア・ライフル立射
(六十発)」で三年三組鈴
木仁子さん八位入賞。「少
年女子ビーム・ライフル
立射(六十発)」で二年
一組小林和奈さんが四位
入賞。「少年混合ビーム・
ライフル立射」で二年一
組小林和奈さん・藤川暁
匡君が四位入賞でした。
スポーツクライミング競

技には、本校の部活動に
はありませんが、二年一
組篠崎由希さんが出場し
三位に入賞するという快
挙でした。また、ボラン
ティアで参加した生徒の
活躍が素晴らしく、日本
ライフル射撃協会会長か
ら本校あてに感謝状をい
ただきました。

運動部以外でも、令和
四年度栃木県肉牛後継
者・高等学校・大学校枝
肉研究会において最高級
ランクA5(BMS12)
を獲得し、最優秀賞を受
賞。全国産業教育フェア
青森大会のフラワーアレ
ンジメント競技に栃木県
代表として二年一組野沢
結貴さんが出場しました。

岐阜女子大学主催の
「朝ごはんコンテスト」
に二年三組柳楓夏さんが
入選、栃木県・栃木県特
用林産協会主催の「きの
こ料理コンテスト」にお
いて奨励賞。真岡市社会
福祉協議会主催の「おう
ちで非常食クッキング」
において社協会長賞を一
年五組西田陽貴君、災害
ボランティア支援委員会
委員長賞を一年五組田口
葉さんが受賞。姫路市主
催の「アグリテック甲子
園」では本選出場十チー
ムに選出され、今後に期
待をしています。



青年部部长 挨拶

平成二十三年度卒

川 澄 聖 人



今年度、同窓会青年部部長を仰せつかつております、川澄聖人です。

この度、会報発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。日頃より、青年部活動に對しまして、格別のご理解ご協力を頂き、ありがとうございます。

私たち同窓会青年部の主な活動として一番重点を置いていますが、学校祭での焼きそば販売です。

前年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響で思うような活動ができず、不完全燃焼に終わってしまいました。今年こそはと私も含め、他のメンバーも意気込んでいましたが、今年も同窓会青年部としての焼きそば販売は中止となり残念でした。その分

来年度こそは更に力を入れ、皆さんの高校生活の思い出とこれから先へ繋がる刺激になればいいなと思っております。

私たちの活動に興味を持ってくれた方は、卒業してから一緒に焼きそばを焼きましょう！

最後になりますが、今後とも青年部活動にご指導ご協力頂きますよう、お願い申し上げます。

P T A 会長挨拶

P T A 会長

渡 邊 悟



今年度、P T A 会長を務めさせて頂いております。同窓会の皆様におかれましては、日頃より本校の活動に對してご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

昨年度までの二年間は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校行事のほとんどが中止になり P T A 活動が思うように出来ず、また学校内の生徒たちを見る機会がありませんでした。今年度は W i t h コロナの流れがあり、P T A 関東大会等が W e b で開催され、県内の各協議会や総会などが三年ぶりに集まっていた。開催となり、アフターコロナ元年の兆しがありました。しかし、八月ごろから感染者が増え、県内各地でイベントが中止になり、またも学校行事にストップがかかったりしてしまいました。

そんな中でも今年度は三年ぶりに真岡北陵高祭が開催されました。これも先生方の日々の感染対策を徹底して頂き、当日の感染対策の対応にご尽力を頂いたお陰と感謝しております。また生徒たちも先生方の言う事をしっかりと守り、一人一人が出来る感染対策を行った事により出来たと感じております。

三年ぶりの開催の為、生徒たちも初めての北陵祭で三年生にとっては最初で最後なので大いに楽しんでいました。P T A の方々にも受付業務のご協力を頂きました。P T A としても学校行事に携わることが出来て満足感がありました。

私も保護者の一人として学校内を見学させて頂きましたが、生徒達の楽しんでいる姿を見ることが出来ました。そんな中でも礼儀正しく校則を守る姿勢に先輩方から脈々と受け継がれている校風を感じました。

今後はどうなるかわかりませんが、P T A として生徒達がより良い学校生活の為に協力していきたいと考えておりますので、今後とも P T A 活動へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和四年度同窓会総会に於いて、身に余る表彰を受け、同窓会会報発行に当たり、一言お礼申し上げます。ありがとうございます。



叙勲おめでとございます

旭日双光章を受賞して

昭和三十七年度卒 松本 清



令和三年度の叙勲で、上三川町議会議員を六期二十四年間務め、この間町議会議員、副議長を歴任したことが認められ、旭日双光章の栄に浴しました。これも多くの皆様のおかげとひとえに感謝しております。

私は、本校在学中、二年生の時は養鶏を学び三年生の時は野菜を学びました。そして、卒業した春に十アールのキュウリの栽培を始めました。秋に玉葱の種まきを共同で行っていた時に先輩から冬は暇だろうからブロッコリーの仕事に行かないかと誘われました。冬から春までブロッコリーの仕事に熱

優良同窓生紹介

真農と私の青春

昭和四十五年度卒 矢口 昭



令和四年度同窓会総会に於いて、身に余る表彰を受け、同窓会会報発行に当たり、一言お礼申し上げます。ありがとうございます。

私は四才の頃、宇都宮の病院へ入院し闘病生活をし、九死に一生を得て、今後はどうなるかわかりませんが、P T A として生徒達がより良い学校生活の為に協力していきたいと考えておりますので、今後とも P T A 活動へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

今日あるを感謝し最善を尽くす

昭和五十八年度卒 阿久津 昌弘



『今日あるを感謝し最善を尽くす』今、私が経営する会社の社訓にもなっている言葉です。十五の春に当時真岡農業高等学校に入学しました。あれから四十二年の月日が流れましたが、当

時はヤンキーススタイルが流行していて、リーゼンに長ランや短ラン・ドカンと呼ばれる太いズボンで、外から見た人達はさぞかし危ない少年に見えたと思います。しかし、悪質なじめもほとんど

中しているうちに野菜のことをすっかり忘れてしまいました。これが松本ブロッコリー工業を立ち上げるきっかけとなりました。現在も会社の代表を務めています。息子達に任せています。

高校卒業後に町の青年団に入団し、六年目に団長となりました。団活動では多くの仲間と切磋琢磨し、充実した日々を過ごしました。当時の仲間

のサッカーチームと日曜日は試合を毎週行いました。三年生になり、私は自宅から大野原の真農まで、自転車通学になりました。友人四人とサイクリングによる北海道から

益子までの走る計画です。真農の校長先生へ自転車による他県への道路通行の許可を判断・認可され、十日間の自転車による旅を成し遂げました。

那須キャン・校内体育大会・H R 発表・意見発表・校内マラソン大会・京都への修学旅行、長髪から五厘坊主にしてこいとの先生からの指導、

農家の長男として生まれ育ち、幼いころから労働力として農作業に携わってきました。いずれ家業を継ぐ事を決めていた私は、勉強に興味をみいだせなくて、当時入学できる高校も少なく、親父の病気の為に導かれる様に、本校の門をくぐりました。

四十二年後に優良同窓生として選ばれる事など

とは今でも深い付き合いが続いています。五十一歳の時に町議会議員に初当選しましたが、青年団当時の多くの仲間を支えてもらいました。議員在職中で特に記憶に残っていることは、平成十六年・十七年の宇都宮市との合併協議のことです。町議会の合併特別委員会会長として合併促進に向けて、合併協議や地域説明会に奔走しました。

これら貴重な真農と私の青春は私に自信と勇気を与えてくれた大野原の思い出です。

真農を卒業してすぐ就農、あれから五十二年、私も七十一才になりました。娘と息子は自分の人生は自分で決めると、東京で働いています。働きものの妻と農業をする二人家族です。私も昨年より急に体の調子が悪くなり、今年より、夏秋ナスの栽培・ダイズ栽培・ボランティア活動の二十一才から始めた空手道週二回、二時間、益子町の武道場での、子供たちとの修行・押忍、

知る由もなく、当時は勉学には無関心で、家業である養豚を含めた農業には興味がありました。当時の担任の先生は星先生で進学を勧めて頂き、推薦にはなりませんでしたが、進学して家業を継ぐ事が出来ました。

現在、真農型太陽光発電と有機栽培とアニマルウェルフェア中心の、生態系調和型スマート農業に取り組んでおります。

人は出会うべきときに出会うべき人と必ず出会える。有機栽培は、故稲葉光國先生に学びました。

『今日あるを感謝し最善を尽くす』今も胸深くきざまれた大切な訓示です。

益子町町長 就任おめでとうございます



我以外皆我師也

昭和四十七年度卒 廣 田 茂十郎

私こと、昨年の四月五日に行われた、益子町長選挙において当選させていただきました。四月二十日に初登庁させていただきました。

ただいまから約一年が過ぎます。町政を担う責任の重さがますます強くなる事を感じながら、町政運営に励んでいるところです。

私は常に「我以外皆我師也」の思いで人生を歩んできました。

昭和四十八年三月卒業です。今から五十余年前に真岡農業高校において、高校生活を送りました。

真農時代が、私の人生の原点だと思っています。

まず今の体力を培ったのが、片道十六kmを三年間自転車通学した事だと思っています。丈夫な体を与えてくれた両親と自転車通学に感謝です。

農業クラブ活動も自分を大きく成長させてくれました。県連会長として各種会議や大会に参加させていただきました。

真農時代が、私の人生の原点だと思っています。

物事の見方、対処の仕方についても、真農時代の恩師の皆さんから学んだことです。そして、何といっても多くの友人が出来た事が

大きかったと思います。私の同級生は、ほとんどが就農して地元に残りました。そして、皆地域のリーダーとなっていました。

高校時代の友人達との出会いが私を育ててくれたと考えます。

私は卒業後、就農して地域の中で生きてきました。様々な地域活動と、多くの真農同窓生にも育っていただきました。

私が今、町長という立場にあるのは、真農に学んだことに原点があると考えます。「今日あるを感謝し、最善を尽くす」を胸に精一杯励みます。

農業機械科

科長 大森 裕 樹

社会や環境が変化する中で、農業もその変化への対応が求められています。

農家の減少に伴う作業コスト・労働不可の低減、また安心安全・美味しい等、農作物の付加価値の向上は必要不可欠な状況です。

農業機械科では、新技術の活用へと対応できるよう、基礎・基本を重視するとともに、農業機械の点検・整備や運転操作に関する知識と技術を身に付けていきます。

さらに「ものづくり」のノウハウを習得させ、社会で即戦力として活躍できるよう、様々な資格取得にも積極的に取り組まさせていただきます。

そして、農業をはじめとする地域産業を支える人材の育成を目指し、厳しく、丁寧な指導をモットーに学科職員一同で取り組んでいます。

今年度は、いまだコロナ禍ではありましたが、少しずつ制限も緩和され、生徒たちも学習や実習、校外活動に真剣に取り組む姿が見られました。

今年度の生徒活動状況と取り組みについて紹介します。

①栃木県学校農業クラブ連盟平板測量競技会

令和四年八月九日(火)に栃木県立栃木農業高等学校において「栃木県学校農業クラブ連盟平板測量競技会」が行われ、本校からは農業機械科三年生の四名が参加しました。

この競技は、平板測量の技術を用いて、指定された測量区域の境界線測量と、測量成果をもとにした面積計算、図面仕上げを行っていくものです。

本学科には測量の授業がない中、生徒たちは一から勉強し、練習も放課後や夏休み等に行い、測量技術を磨き、その結果、六校中二位となりました。

あと一歩で全国大会出場でしたが、今回参加した三年生の頑張りは、来年以降参加する下級生に良い刺激となり、この結果を生かして来年に向けて頑張っていきたいと思っています。

②栃木県高校生溶接コンクール

令和四年十月二十二日(土)に栃木県立県央産業技術専門校で開催された「とちぎものづくり技能競技大会 溶接の部(第十三回栃木県高等学校溶接コンクール)」において、農業機械科一年生 柿岡来君、菅野颯太君が出場しました。

コロナ禍で思うような練習ができません

きない中、大会に臨みました。練習不足と緊張した。練習不足と緊張した。練習不足と緊張した。

勝手を本校に持ち帰らせたいと後輩の指導に当たってくれています。

③森林・林業への理解及び就業促進に係る説明会



就業促進に係る説明会



平板測量競技会



溶接コンクール



講師を招いてのデコレーション実習



アグリテック甲子園2022本選出場(オンライン発表)



令和4年度とちぎ地産地消夢大賞



全国ユース環境活動発表大会 関東地方大会

食品科学科

科長 粕 谷 晴之輔

食品科学科では、食品の生産から加工・流通までを総合的に学ぶことができます。また、貯蔵・品質管理及び食品衛生に関する知識と技術を身に付けることで、食品関連産業への就職や、上級学校への進学を目指します。

今年度もコロナ禍の中ではありましたが、生徒が製造する加工品味噌、いちごジャム、ブルーベリージャム、パン類)については従来に近い形で製造・販売を行うことができました。

進路探索については、今年度は各種食品関連施設や上級学校(四年生大学、専門学校)での体験学習も幅広く実施することができました。

校外活動として、今年五年目となる「ベリー」

今後とも地域の貢献できるように人材の育成に取り組んでいきたいと思っています。

令和4年度とちぎ地産地消夢大賞

全国ユース環境活動発表大会 関東地方大会

令和4年度とちぎ地産地消夢大賞

各科の近況

生物生産科

科長 高橋 由 起

生物生産科では、農業経営や農業関連産業のスペシャリストの育成を目標としており、学習活動に取り組みんでいます。本年度は、昨年度に比べ学校行事や校外学習の場が増え、生徒たちも充実した学習環境で学びを深めることができました。

①GLOBAL G.A.P. 認証について(作物部・果樹部)

本年度も引き続き、果樹部門のニホンナシと作物部門のコメ(コシヒカリ)でGLOBAL G.A.P.の継続認証審査を受けました。この活動

では果樹専攻生と作物専攻生を中心に、安心・安全な農作物の生産について学ぶことができました。

②農業教育高度化事業での若手農業者による講演会(野菜部)

若年層の就業意欲喚起のため、本校OBの飯塚拓郎氏に講演を依頼し、イチゴ栽培におけるスマート農業の実践について講演をいただきました。



飯塚氏による講演会



G-GAP 審査の様子



校内での豚肉販売会



フラワーデザインコンテスト入賞作品

銅賞(草花部) 生物生産科二年の野沢結貴さんが、NFD全国高校生フラワーデザインコンテストで銅賞に入賞しました。この作品は、真岡市飯貝のキク農家、大塚真司氏の協力を得て、真岡市産のキクをリースにしたもので、地評でした。

④北陵イチゴ豚の豚肉販売(畜産部)

農業クラブの研究活動で飼育している豚を、地域の精肉店の協力のもと、校内で限定販売することができました。予定した数量よりも多く販売することができ、大変好評でした。

総合ビジネス科

科 長 飯 田 佳 史

最近のグローバル化や知識基盤社会の進展は、人材や知識そのものの国際競争を加速させ、産業構造や就業形態にまで影響を及ぼしています。また、雇用形態にもかつて経験したことのない、多様性や流動性などの変化をもたらしています。

総合ビジネス科で学ぶ生徒は、複雑で変化の激しい経済社会に対応できるように、自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組めるよう指導しています。そして、ビジネスに関する最新の専門的な知識・技術や実践力、忍耐力、

を体験してきました。六月には、佐野松桜高校で行われたビジネス計算競技大会や高根沢高校で開催されたワープロ競技大会に参加しました。おし



販売実習



商業機関見学

にも入賞とはならなかったものの、日頃の成果を十分に発揮できた大会となりました。七月には、高根沢町の町民ホールにおいて、生徒商業研究発表大会が開催され、三年生を中心にSDGsをテーマとした課題研究の成果を堂々と発表し、奨励賞をいただくことができました。

また、日頃から資格試験に向けて真剣に取り組む、今年の三年生は現在、全国商業高等学校協会が主催する検定において、六種目で一級合格している生徒が一名、五種目で一名、四種目で六名、三種目で十名と三種目以

上二級を合格している生徒が合計で十八名となりました。今後も企業の即戦力となる人材の育成はもちろん、地域に貢献できるような人材の育成に取り組んでいきたいと思っています。



生徒商業研究発表大会

三団体の活動内容

三年一組 水 沼 輝 星

私は今年度、農業クラブ会長という立場で活動してきました。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で収穫祭は開催することができませんでしたが、しかし、校内意見発表会や農業鑑定競技会などは開催することができました。様々な大会やイベントを開催することができたため、クラブ員の方々に身近で農業クラブ活動の内容を理解してもらえたのではないかと思います。

また、来年度は今年度よりも農業クラブ活動を活性化させることができるのではないかと考えています。では今年度、農業クラブ会長として、役員やクラブ員の方々に快適に仕事をしてもらえようように相談にのったり、優しく接したりするように心がけてきました。これにより、今までの先輩達が築きあげてきた伝統が途絶えないようにしました。この一年間を振り返ると、最初は会長が務まるか不安なスタートでした。しかし、顧問の先生方や役員の方のサポートのおかげで、乗り越えることができました。会長としての力を出すことができました。

介護福祉科

科 長 柳 路 子

日本で新型コロナウイルス感染症が初めて確認されてから三年目となり、学校生活や学習環境も大きく変化しながら、日々の学習活動が行われている。まだまだ落ち着かない状況ではあるが、福祉教育を進めていく上で、ウィズコロナの時代に、何ができるかを常に考えながら、安心・安全を第一に教育活動を進めている。本学科の最大の目標でもある介護福祉士国家試験も、国家試験に係る感染症の感染防止対策（令和四年十二月五日付）に基づきながら、生

徒全員が安心して国家試験を無事に受験できるよう、校内でも感染対策を行っている。

令和四年度も、介護施設等で実施するはずの五十五日間の介護実習を、校内代替という形で実施した。現場で働く専門職の方々の話を実際に聞くことは、生徒にとって介護現場を知る貴重な機会であった。また、今年度は、高校三年間で一度も介護現場での実習ができなかった三年生に、少しでも介護現場を見せることはできないかということから、社会福祉法人恵

光会様と医療法人南河内診療所様のご協力をいただき、施設の外側からご利用様や職員の方々の様子、施設の構造等を見学させていただいた。そして、施設に勤務する卒業生から、直接、介護職の大変さややりがいについての話を聞くことができ、自分の介護観について考える機会ともなった。



農業クラブ活動報告

顧問 菅 原 礼 太 郎

今年度の農業クラブの主な取組についてご報告いたします。

■会務と事業

4/20 第一回役員会・春季役員研修会

4/27 校内学校農業クラブ総会

5/10 校内意見発表会

6/8 家畜審査競技会県大会（乳牛の部）

6/17 栃木県学校農業クラブ連盟大会（プロジェクト・意見発表県大会）

7/8 校内農業鑑定競技会

8/2 校内農業鑑定競技会

8/2 校内農業鑑定競技会

8/2 校内農業鑑定競技会

8/2 校内農業鑑定競技会

8/2 校内農業鑑定競技会

8/2 校内農業鑑定競技会

8/2 校内農業鑑定競技会

8/2 校内農業鑑定競技会

8/2 校内農業鑑定競技会

8/2 校内農業鑑定競技会

8/2 校内農業鑑定競技会

8/2 校内農業鑑定競技会

フラワールレンジメント競技会県大会

8/4 平板測量競技会県大会

8/18 関東地区学校農業クラブ連盟大会（茨城）

9/6 第二回役員会・秋季役員研修会

10/26 日本学校農業クラブ連盟全国大会（北陸）

11/5 北陵高等学校祭

12/7 立会演説会

12/9 選挙投票日

12/14 第三回役員会・編集委員会（県連）

1/26 校内意見発表会

本校第一体育館で行われた校内意見発表会では、各クラスから代表者が選ばれて、九名の生徒が出演。自分の経験を含めた意見を七分間の原稿にまとめ、しっかりとし

令和三年度の総会では、令和三年度会務並びに事業報告（校内・県連）、会計決算報告、令和四年度会務並びに事業案（校内・県連）、会計予算案について審議されました。

●校内意見発表会

本校第一体育館で行われた校内意見発表会では、各クラスから代表者が選ばれて、九名の生徒が出演。自分の経験を含めた意見を七分間の原稿にまとめ、しっかりとし

た態度で発表しました。
このうち三名が県大会に出場しました。

最優秀賞

三の三 直井 紅李

「米ブレッドを作ろう」

優秀賞

三の一 水沼 輝星

「農業への思い」

「加工して食品ロスを減らす」

一の三 館野さくら

「校内農業鑑定競技会」

本校第一体育館で行われた校内鑑定競技会では、クラブ員が普段学んでいる専門知識について、四十問の問題に挑戦しました。

最優秀賞

三の一 荒山 流太

最優秀賞

三の二 加藤 智也

最優秀賞

三の三 藤田菜々愛

「栃木県学校農業クラブ連盟大会(各種発表大会)」

栃木県教育会館を会場に、県大会が行われました。校内予選を勝ち抜いたクラブ員が学校代表として出場しました。六部門中一部門で最優秀賞を獲得することができ、関東大会への切符を手に入れたことができました。

○プロジェクト発表

【分野：Ⅰ類】

【生産・流通・経営】

三の一 鈴木 唯斗

三の一 他四名

「挑む。本校初の品種の導入、脂を求め、味を求

め、効率を求めた理想の「北陵いちご豚」とは」

【分野：Ⅱ類】

【開発・保全・創造】

三の三 北村 妃奈

「地域に眠る野菜たち、野菜の利用価値を高めるために」

【分野：Ⅲ類】

【ビュウマンサービス】

三の三 落合 春弥

「フードアクション芳賀、輝け北陵ブランド商品」

【意見発表】

【分野：Ⅰ類】

【生産・流通・経営】

【輝星めく農業】

三の一 水沼 輝星

【分野：Ⅱ類】

【開発・保全・創造】

【米(My)ブレッドを作ろう】

三の三 直井 紅李

【分野：Ⅲ類】

【ビュウマンサービス】

「規格外のいちごと高校での目標」

一の三 館野さくら

【家畜審査競技会(肉牛の部)】

栃木県畜産酪農研究センター(那須塩原市)を会場に行われ、本校生徒は五名が参加し、一名が優秀賞を獲得しました。

○出場者

三の一 松尾 龍星

三の一 小島 恋奈

三の一 篠塚 玄基

三の一 高松 誠

三の一 渡邊 真

【フラワーアレンジメント競技会】

JAしおのや矢板地区営農生活センターにおいて、指定された花器・花材を用いてフリースタイルで各校代表生徒が作品を作り上げました。本校からは一名が参加し、見事最優秀賞を獲得しました。

○出場者

二の一 野沢 結貴

【平板測量競技会】

今年度の平板測量競技会は、栃木農業高校グラウンドにて行われました。本校からは、農業機械科三年のチームが出場

し、優秀賞を獲得しました。

○出場者

三の二 平塚 郁充

鈴木 彩斗

橋本 健太

横田 充希

【関東地区学校農業クラブ連盟大会(茨城大会)】

茨城県において第七十三回日本学校農業クラブ全国大会令和四年度北陸大会が行われました。本校からは農業鑑定競技会に各学科の代表に選ばれた三名が出場しました。

○出場者

三の一 荒山 流太

三の二 加藤 智也

【日本学校農業クラブ連盟全国大会(北陸大会)】

富山県・石川県・福井県において第七十三回日本学校農業クラブ全国大会令和四年度北陸大会が行われました。本校からは農業鑑定競技会に各学科の代表に選ばれた三名が出場しました。

○出場者

三の一 荒山 流太

三の二 加藤 智也

関東大会に出場して

食品科学研究部 三年三組 落合 春 弥

私たちは食品科学研究部は、地元の特産品であるイチゴを使った商品開発や、地元広報誌へのレシピ提供、地域イベントへの参加などを行ってきました。食品科学研究部は令和四年度より、カゴメ株式会社との共同研究を開始しました。共同研究での内容を分野Ⅱ類で六月に行われた県大会、八月に茨城県で行われた関東大会で発表させていただきました。

県大会では日頃の練習の成果を発揮することができ、関東大会へ進むことができました。関東大会のスライドでは、新た

に動画を組み込むなどの工夫もしました。原稿を読むスピードや動画の流す時間など、秒単位で調整するのがとても大変でした。前日もホテルでの練習ができず、リハーサルが最後の練習となりました。本番当日、発表順番が最後のため、控え室で全ての学校の発表を聞きました。各都県の代表校はともすればらしい発表で、不安と緊張で胸がいっぱいになりました。しかし、本番では今まで練習してきた成果を十分に発揮することができました。自分たちの研究内容や活動内容を他の都県の

方々に発表できたこの大会は、とても良い経験になりました。今後の高校生活への大きな糧となりました。今回の研究内容は、たくさんの方の協力があったからこそだと思います。データ収集のために協力いただいた先生方、生徒のみなさん、外部では、私達のためにブースを用意してくださった道の駅「にのみや」、「ベジチェック」を貸与いただいたいるカゴメ株式会社など多くの方に大変お世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。本場にありがとうございました。

全国大会農業鑑定競技会に参加して

生物生産科 三年一組 荒山 流太

食品コース
三の三 藤田菜々愛
●栃木県学校農業クラブ連盟新役員研修会
令和五年一月二十七日
に、栃木県立栃木農業高等学校で行われた新役員研修会では、令和五年度の新役員が集まり、来年度に開催される役員会に向けて、会議の進め方を学ぶことができました。また、名刺交換会が行われ、多くの役員と顔をあわすことができました。来年度に向けて栃木県連として団結することができました。

今回、初めて農業クラブの全国大会に出場しました。初めての出場ということもあり、不安と期待で胸がいっぱいでした。競技会のこともたくさん印象に残っています。道中の景色も印象に残っています。その中でも栃木県とは異なる栽培方法や作付けを行っていた圃場が多かったように思います。

に出場したことで、栃木県とは違った農産物の生産方法などが学ぶことができ、自分にとって必要な農業の知識のページに刻むこともできました。大会へ出場し数多くの発見や体験ができ、全力で取り組めたので良い思い出です。最後になりましたが、全国大会に出場するにあたり、お世話になった全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

全国大会農業鑑定競技会に参加して

農業機械科 二年二組 加藤 智也

私は、昨年に引き続き農業鑑定競技会で全国大会に出場しました。今年度は、昨年の経験を活かし、昨年より早めに学習を始めた。私は農業機械科の生徒のため、メインは農業機械です。そのため、作物などの他の分野

は、担任の先生やその分野の先生に教えてもらいながら日々学習しました。また、食前には実物を見た方がよいとアドバイスをいただいたため、特に肥料類の実物を見てまとめるなどの方法で学習しました。しかし、競

技会が始まると、勉強をしていた部分もありましたが、まだまだ勉強が十分だったため、最低ラインを考えたいた優秀賞にも届くことができました。改めて、農業の難しさを実感しました。今回の大会で、自分

全国大会農業鑑定競技会に参加して

食品科学科 二年三組 藤田 菜々愛

私は、第七十三回日本学校農業クラブ全国大会令和四年度北陸大会の農業鑑定競技会に参加しました。私は分野「食品」の代表で参加しました。大会への出場は今回が初めてだったため、勉強の仕方が分からず、少し不安な気持ちで勉強を始めました。

勉強の方法としては、出場範囲を参考にして、一つずつノートにまとめて行きました。教科書の隅々まで調べたり、分からないところはインターネットで調べたりするのがとても大変でした。また、学習していない内容も多々あり、一から学習しました。鑑定

競技の出題範囲はとても幅広く、地道にノートにまとめるのは大変でした。大会当日、会場でのあまりの人の多さに驚きました。また、今までの勉強の力を発揮できるのかというプレッシャーと緊張がありました。しかし、本番は落ち着いて問題に臨むことができました。

今回の全国大会は私にとって、とても良い経験になりました。入賞するという目標が達成できなかったのですが、悔しい気持ちがありました。来年こそは入賞できるよう精進していきたいです。

栃木県フラワーアレンジメント競技会

生物生産科 二年一組 野 沢 結 貴

私は、八月四日に開催された、栃木県学校農業クラブ連盟主催のフラワーアレンジメント競技会に出場しました。私にとって初めての挑戦であり、とても緊張した大会でした。

ドラセナを生けました。リンドウをまっすぐに三本段差をつけることで、天に向かって伸び上がるようなイメージにしました。また、夢や目標に向かって成長する青春期を表しました。ユリやバラはふんわりと生けることで、輝きを表現できるように、先生と考えながら練習をしました。オアシスが見えないようにすることがポイントなのでグリーンでしっかり隠すこ

とを注意しました。また、一つ一つの花の顔をしっかりと見て生けることも心がけました。この競技会に参加するにあたって、たくさんの方のアドバイスを学ぶことができたので、私自身の力もつけられました。先生と一緒にアレンジ方法を考える時間も楽しく、完成した時の喜びや美しさを改めて知ることができました。良い練習時間となりました。少ない時間

の中で指導くださった先生と挑戦した大会で、最優秀賞をいただくことができたことはとても嬉しかったです。私自身、納得のいく作品を作り上げられたと思います。一時間半という時間はあっという間で、貴重な体験と思い出に残る大会でした。何よりも、想像を巡らせながら楽しくできたことが本当に良かったです。先生には感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございます。

生徒会長として

三年三組 林 龍 輝

真岡北陵高校の生徒会長になってから約一年が経ちました。もともと、人と接するのが苦手だった私にとって生徒会活動等で生徒のみんなを引っ張っているのか不安でした。しかし、私が困っている時には仲間が悩みの相談に

付き合ってくれたり、アドバイスをくれたりとても助かりました。また、後輩も気軽に話しかけてくれて、いつの間にか人と話すのが好きになると同時に、人の思いやりや協力することの大切さにも気づかされました。

今年度は体育祭や文化祭もほぼ例年通りに行うことができ、コロナ禍であつても思い出をたくさん作ることができました。コロナウィルスは終息のめどが立たず厳しい状況が続いていますが、大好きな真岡北陵高校の生徒

会長として、少しでも力になったことを誇りに思います。来年はもっと学校行事が楽しめるよう、行事を運営していければと思います。そして早く普通の学校生活に戻れることを願っています。最後になりますが、今日まで一緒に活動してくれた生徒会役員のみならず、先生方今まで本当に世話になりました。

家庭クラブ会長として

三年五組 紀 野 明日花

私は今年度、家庭クラブ会長として活動させていただき、多くの経験をさせていただきました。年度当初は会長という責任のある役目を果たせるか不安でしたが、顧問の先生や福祉科の先生方、役員の仲間など多く

の方々に支えられ、役目を果たすことができました。今年度もコロナ感染の影響により、活動は縮小して行いました。校内活動では、調理講習会、募金活動、一昨年からの老人給食サービス事業にて

配布していただいていた「真心カード」の作成を行いました。校外活動では、オンラインによるリーダー養成講座に参加し、他校と情報交換や交流を深めることができました。コロナ禍でもできる活動を考えながら活動

してきました。これから制限が緩和され、家庭クラブの活動がより活発になるよう願っています。最後になりますが、ご指導していただいた先生方、クラブ員、地域の皆様、あたたかいご支援をありがとうございました。

生徒会活動報告

顧問 手塚 宗 恵

今年度の生徒会活動について、ご報告いたします。コロナ禍でありましたが、感染対策をしながら生徒会役員を中心に活動を行いました。

一学期はたくさんの方の生徒会行事がありました。四月には、対面式や部活

動紹介、生徒総会を実施しました。六月には、体育祭が開催されました。サッカー、卓球、ドッジボールなどの各球技が行われました。七月には、野球応援があり野球部員に向けて懸命に応援をしてきました。

二学期には、北陵祭がありました。北陵祭の校内公開では、英語弁論の発表、演劇部・吹奏楽部による劇、有志団体や軽音楽同好会による発表など多くの素晴らしい発表がありました。一般公開では、保護者限定ではあ

りましたが、多くの方に来ていただきました。農産物販売や食品販売、体験・展示ブースなど様々な取り組みがありました。今年度のスローガン「笑顔輝け！青春Festival」！意匠「笑顔」のように、生徒の笑顔が輝き充実した一日となりました。

最後にありますが、今年度ご協力いただいたことに改めて感謝申し上げます。新しい生活様式の中で、生徒会活動も制限されることが多い一年でした。どのような状況でも柔軟に対応し生徒が輝ける場を作っていきたいと考えております。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



学 校 祭



体 育 祭



部活動紹介

家庭クラブ活動報告

顧問 松本 歩

三年目のコロナ禍において、感染対策を徹底した上で、少しずつ活動の幅を広げていきました。

まずは災害時非常食として調理講習会を行いました。災害時に備え、限られた食材や熱源を用いて

体験することができました。この調理講習会を踏まえ、生徒が各家庭で考えた献立を、真岡市社会福祉協議会が主催する「非常食クッキング」に応募しました結果、二名の生徒が入賞することが



非常食クッキング表彰



募金活動

また、学校祭では募金活動を行い、来校された保護者の皆さんや先生方、生徒の皆さんからあたたかいご支援をいただきました。歳末助け合い募金に寄付させて頂きました。コロナ禍だからこそ、体験活動や人との交流が貴重なものと感じられました。地域や社会に、自ら関わろうとする一歩となる活動を広げ、積み重ねていきたいと考えています。今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

関東大会出場（陸上競技部）

三年四組 上野 夢翔
三年五組 今成 大地

私たちは八月十九日、二十一日に山梨県で行われた、関東陸上競技選手権大会に出場して参りました。出場種目は、男子円盤投げと男子八〇〇メートルです。

モチベーションを常に保ちながら、記録の向上を目指して練習しました。大会当日は、自分の力どの程度まで通用するのか試したい気持ちと、惜しくも県大会で敗退してしまっただけの気持ちは、大会に出場できたことがとてもうれしく思います。この大会での学び、そして思い出が、私たちの一生の宝物になります。最後に、ここまでご指導くださった顧問の先生方、そして三年間共に

に、限界を超えるという

の更新ができませんでした。しかし、これまでの陸上人生で出会ったすべての人、そして今回の大



陸 上 部

練習をした部員たち、応援してくださいました。ありがとうございました。

関東大会出場（弓道部）

栃木県立真岡北陵高等学校弓道部



集合写真

弓道部女子団体は、四月二十三日に行われた県高校総体兼関東高校大会県予選会において、競射の末、上位四校に入り、関東大会の出場権を得ることができました。六月三、五日、神奈川県の名市運動公園総合体育館特設で完全室内のため、矢が的中する音が普段の弓道場よりも響き渡っていました。生徒たちの緊張感と高揚感が高まっていた様子でした。

弓道は、一般的に的場が屋外にある弓道場で行われますが、今大会は特設で完全室内のため、矢が的中する音が普段の弓道場よりも響き渡っていました。生徒たちの緊張感と高揚感が高まっていた様子でした。

団体の予選は三人一チームで一人八射（計二十四射）し、上位十六チームが決勝トーナメントへ進出となりますが、北陵は十一中（三十六チーム中二十二位タイ）という結果で、惜しくも予選通過なりませんでしたが、しかし、生徒たちは堂々とした姿で、とても輝いていました。貴重な経験ができて、顧問としても、うれしく思います。



競技の様子

全国大会に出場して

栃木県立真岡北陵高等学校ライフル射撃部

私達は、七月二十八日から七月三十一日にかけて広島県安芸太田町で行われた第六十回全国高等学校ライフル射撃選手権大会に出場して参りました。結果は、チーム女子団体戦三位入賞、チーム男子個人戦三位・五位入賞を果たすことができました。チーム戦は、上野唯愛・楠本もえ花・小林和奈の三名で団体を組み、それぞれ予選で点数を撃ち、その合計点で順位を決めます。



選手集合

女子団体戦は二十八日に行われ、射撃順は一番手に楠本、二番手に小林、三番手に上野という順番で競技を行いました。試合当日、一番手と二番手が高得点を狙い、三番手に負担をかけるだけではないという作戦で競技に臨みました。選手一人一人集中し粘る射撃をしたことで、見事作戦が成功して三位入賞を勝ち取ることができました。チーム女子個人戦は、予選を勝ち抜いた上位八名の選手が決勝戦でもあるファイナルに出場できます。その上位に楠本と小林が残り、決勝戦に臨みましたが、互いに一発一発を丁寧かつ攻める射撃を行



団体3位入賞

い、最後まで粘る射撃を行いました。諦めず競技を行ったことにより、小林が三位入賞、楠本が五位入賞を果たすことができました。今回、このような結果を残すことができたのは、仲間の応援やサポートがあったからこそ掴み取ることであったと思います。この結果に慢心せず、次こそは「優勝」を勝ち取るために、今後の練習や試合に活かしていきたいと思っています。

とちぎ国体に出場して

栃木県立真岡北陵高等学校ライフル射撃部

私達は、十月四日から十月九日かけて、栃木県宇都宮市で行われた第七十七回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」ライフル射撃競技会に男

女合わせて六名が出場しました。国体は、国内最大の国民スポーツの祭典です。特に今年は、本県での開催で都道府県各種目の代表選手が参加し、男女それぞれ天皇杯・皇后杯を目指して競技を行いました。本校からは、A R種目に三年三組の三村夢生・鈴木仁子、B R種目に二年一組の藤川睦



選手集合

目で二年一組の小林和奈が四位入賞を果たし、今大会から新種目であるBR Mix 種目にて二年一組の藤川・小林ペアが四位入賞するなど、天皇杯三十八点【九位】と皇后杯十六点【十六位】を獲得することができました。このような結果を残すことができたのは競技運営に携わり、精一杯選手のサポートをしてくれた部員をはじめ、補助員として参加してくれた二

年一組の皆さんのおかげです。様々な場面でサポートや応援を数多く頂けて私たち選手に取って大きな心の支えとなりました。本当にありがとうございます。今回の結果に慢心せず、次大会に向けて今までに経験したことを糧にライフル射撃競技の一つ一つの種目でポイント獲得ができるよう奮起していきたいと思っています。また、「チーム栃木」の一員として、ライフル射撃競技に関わる全ての方々が一丸となり、目標達成に向けて引き続き競技力向上に努めていきたいと思っています。



補 助 員

進路室から

進路指導部長 小林 重治

生徒たちの弛まぬ努力と保護者の皆様のご協力、そして同窓会のご支援や地域の皆様のご支援のおかげで、本校の令和四年度の進路状況は、昨年度同様概ね良好でした。

茨城県、真岡より企業・事業所などから、六〇〇社近く求人をお願いいただき、大変ありがたかったです。このように、非常に多くの求人をいただいたのは、これまで卒業した

はじめに就職の状況を
ご報告いたします。今年
度の求人、とにかく多
くの企業・事業所から、
求人票をいただき、売り
手市場であったといえま

先輩方が各企業・事業所で一生懸命に仕事に従事して真摯に取り組んでいる姿勢が真岡北陵高等学校への高評価につながった証しだと思います。

す。七月一日の高卒求人解禁日から、求人票をお持ちいただき、廊下に列ができるほど来校して、いただきました。特に近隣の、真岡工業団地をは

九月十六日から始まった採用試験についても多くの生徒が第一希望とする企業・事業所に内定をいただき今後の自信につながったのではないかと思います。

はじめとして、宇都宮の平
出工業団地や清原工業団
地にある企業・事業所、

現在、十二	月末の時点	で、内定をい
合計	女子	

ただくために「生懸命、頑張っている生徒もいるの」で、引き続き、応援していきたいと思います。内定をいただいた生徒たちは卒業まで気を抜くことなく最後まで「教科の学習」プラス「社会人としてのマナーの習得と常識力の向上」に努めておりました。

面接や作文等、様々な形でお世話になった先生方から教えていただいたことと合わせ、春から即戦力として就職先の皆様の期待に応えてくれることを確信しております。

続いて進学 の状況です。大学の合格者および希望者は合わせて十七名、短大の合格者は十名、専門学校 の合格者および希

合	計
17	27

5	7	望者は合わせて四十二名、職業能力開発校の合格者・希望者が四名という状況です。ここ近年では、大学短大の合格者希望者が大変、多いと思います。専門学校合格者・希望者は昨年度より若干、減りましたが昨年も、進学希望者は多くみられました。 進学する生徒は卒業後の就職も見据え、明確な志望動機と将来の目標について語ってくれた生徒たちの凛々しい顔を思い出すと、進学先でも熱心に学びを深める姿が目に見えます。各進学先で夢を叶えるための有意義
3	0	
6	13	
6	14	
3	6	
33	40	

卜
報

元同窓会会長 小坂
利雄様が令和四年十二月
にご逝去されました。
心よりご冥福をお祈り
致します。

編集後記

同窓会会報「北陵」第
四十六号をお届けしま
す。お忙しい中、玉稿を
いただき深く感謝申し上
げます。

令和4年度 3年生の進路状況

(12月15日現在)

在籍数	学 科 名	男 子	女 子	合 計
	生 物 生 産 科	21	16	37
	農 業 機 械 科	39	1	40
	食 品 科 学 科	12	27	39
	総合ビジネス科	11	25	36
	介 護 福 祉 科	4	17	21
	合 計	87	86	173

就 職		公務員		県 内		県 外		在家・未定		合 計	
	学 科 名	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生 物 生 産 科	0	0	10	7	3	2	2	0	15	9
	農 業 機 械 科	0	0	16	1	9	0	2	0	27	1
	食 品 科 学 科	1	0	5	11	0	3	0	0	6	14
	総合ビジネス科	0	0	3	11	0	0	2	0	5	11
	介 護 福 祉 科	0	0	0	9	0	1	1	1	1	11
	合 計	1	0	34	39	12	6	7	1	54	46

進 学		国公立大学		私立大学		私立短大		専門・専門学校等		未 定		合 計	
	学 科 名	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生 物 生 産 科	0	0	1	0	0	1	4	6	0	0	5	7
	農 業 機 械 科	0	0	2	0	0	0	11	0	0	0	13	0
	食 品 科 学 科	0	0	1	0	0	3	4	10	1	0	6	13
	総合ビジネス科	0	0	2	4	0	5	4	5	0	0	6	14
	介 護 福 祉 科	0	0	1	2	0	1	0	2	2	1	3	6
	合 計	0	0	7	6	0	10	23	23	3	1	33	40

発になってきました。

学校教育においても、正常に戻ってきています。母校北陵高校でも校舎のリニューアル工事も一段落し、生徒諸君の文化・運動両面での輝かしい成果もありました。特に本年度は、本県で国民体育大会が開催され卒業生や生徒諸君の活躍がありました。生徒諸君の益々の活躍をお祈りしています。

（昭和四十五年度卒）
小堀 辰夫